



海の便り



今回のMCCレースに使用された豊橋潮流ブイ(7・9月のレースでも使用します)

会報目次

- CHAPTER1 MCCカップ(早朝レース)
- CHAPTER2 スモールクルーザーレース
- CHAPTER3 鳥羽クルージング
- CHAPTER4 第9回蒲郡マリンカップレースのご案内

行事予定

- 7月14・15日 MCC三河湾周航レース(ナイト)
- 7月22日 スモールクルーザーレース
- 7月27~29日 鳥羽パールレース
- 7月29日 蒲郡花火大会観賞
- 8月5日 蒲郡マリンカップヨットレース・東海フェスティバル・JSAF安全講習
- 8月19日 蒲郡ヨットハーバー理事長杯レース
スモールクルーザーレース

MCCカップ（早朝レース）

着順	着順船名	TSF	TMF (A)	到着時刻	所要時間 (B)	修正時間 (A*B)	修正 順位	得点
1	マーメイドプリンセス 5	645	0.930232558	10:27:35	12455	11586	1	20.25
2	ベベ	700	0.857142857	10:46:29	13589	11648	2	19
3	オデッセイ	650	0.923076923	10:34:40	12880	11889	3	18
4	アルミス 5	625	0.96	10:33:05	12785	12274	4	17
5	ダンシングビーンズ 3	625	0.96	10:34:40	12880	12365	5	16

棚ぼたファーストホーム？

久しぶりに優勝記事書く事になりました、マーメイド山田です。

スタートは、毎度時間の読みが下手で出遅れ最後尾からスタート。反省するにラインが狭かった為アプローチのしかたを前もって良く考えておく必用があったかな？みんなぼーっとしてました。

気を取り直して潮流ブイへ向かう。距離はそんなに離されてないのでこのまま離されないように行けばまだ勝てる可能性はあると自分に言い聞かせる。後から10分遅れのオデッセイが気になる。潮流ブイの回航は3番手、思ったより離されて無いのでこのペースで

行く事が出来れば・・・スピンアップして先行艇を追うが先行艇は岸よりと沖だしに分かれる。ウチはせこく中間取り、本船がじゃまくさいがブランケだけ避けるようコース取り。

梶島ブイの回航も3番手、先行艇もコースによる大きな差は無さそうだった。

帰りの潮流ブイまでは登りレグ、沖だしか岸よりか迷ったが風はいいので振れだけ気にしながら成り行きで沖だし、ボートスピードとオーバーセールしないよう気をつけて潮流ブイに向かう。オデッセイが10分遅れの為、全く他艇とのからみなく黙々と走る。潮流ブイの回航も3番手、先行艇との距離も思ったより離れず行けるかも・・・

ここでオデッセイも少し離れたようだ。(ちょっと安心)



回航後、フィニッシュラインに向かうが、先行艇に異変が・・・2艇並んでどんどんプロパーをはずれて上っていく。(スイッチ入っちゃったんだあ)

どこでプロパーに戻るか観察しながらこちらはゴール一直線。

はぁ～と後ろから感心してきているがいっこうにコースを戻す気配が無い。

途中から「ウチのが先入っちゃうよ～うそ～」てな会話をしながらファーストホーム。

去年の奇跡のファーストホームの時「もう二度と無いだろう」と予言してたのに

こんな棚ぼたファーストホームもあるのね！でもやっぱり妙にうれしいのはヨット乗りのサガ？後で稲垣氏曰くマーメイドにはレーティングで負けるから（時間差確認して）ビーンズとのポイント差に拘って勝負したとのこと。最後の幕切れはビーンズのスピンハリがはずれてちゃんちゃん！らしい。

今回の勝因を分析すると、風の強さが丁度良かったことがあげられると思う。ウチは8人で十分なウェイトを確保出来たが、人数の少ない艇にはオーバーパワーだったんじゃないだろうか？今回助っ人で来てくれた、アクティブの杉浦君に感謝です。



スモールクルーザーレース

艇名	船種		GTA	TSF	着順	所要時間	修正時間	順位
リトルウィンディー	YAM21R&CTR		775	0.7742	3	1:14:46	0:57:53	3
バイキング	X79	675	720	0.833	1	0:51:42	0:43:05	1
メーヴ	YAM23	755	760	0.7895	4	1:17:01	1:00:48	4
ホープ	YAM21C	780	785	0.7643	2	1:14:37	0:57:02	2

スモールレース 6月24日(日)

記 Viking 本間 宏

10時前に蒲郡ハーバーに着いた時点で梅雨空から雨が降り出し、南東の微風が吹き始めた。Hope, M?we, Little Windy とわが Viking の全4艇でのレース。Vikingのメンバー、早川茂男、早川正博に本間はそれぞれ船を持って普段は孤独なヨットライフを送っているが、月一回位はレースに参加して、他の船のメンバーと交歓するとともに、種々の情報交換の良い機会と思って、積極的に参加を楽しみにしている。

本日のコースは蒲郡 YH と三谷港の両赤灯台間をスタートライン 小島ブイが唯一のマークのソーセージ2往復。スタートライン上に回航用マークが設置された。スタート準備ではそよ風が安定して、南東の風に係わらず波が殆どなく、位置取りやタイミング取りはやり易かった。しかし、わが艇はいつもながらのゆっくりスタート、つまり一番風下から、最後にスタート。HopeとLittle Windyは早々と登り始める。クローズリーチでマークへ真直ぐ向かったM?weに直ぐ風上で先行されたが、今日のVikingは船に任せてくれといわんばかりに、M?weの風下から頭を出して、フレッシュエアに乗れた。小島ブイは雨にもかかわらず、早い段階で見えてきて、GPSに従って、僅かに東に進路修正を加えて、ほぼアビームでマークに直行した。小島ブイを一番で回航と同時くらいに風が少し南に廻って、先行艇には

追い風、後続艇には向かい風と普段の行いの差がでた。ジェノアで波のない海面をブロードリーチ気味に走って、スタートライン上のマークを回航。クローズリーチで、走り続けた。途中、何度か風向きがSE-Eくらいの間で変って、戻りは雨の中でスピンを揚げることになるかと思っていたが、不思議と上マークに着くと、スピンを揚げなくて済む程度に風が少し南に廻って、われわれには追い風になり、上マークに向かっている艇には向かい風になるという幸運で、楽勝させて頂いた。

微風ならヒールを付けたり、風が上がったらヒールをつぶしたりが必要だが、今日の風はどちらも必要なく、艇はほぼ直立で、波のない海面を滑らかに走ることができた。レースを終えて海陽ハーバーに戻る時も東に廻った風が気持ちよく吹いて、ディンギーのレース海面へ近づき過ぎるくらいまで滑らかな帆走を楽しめた。帰り道、後続艇を見ていると、またもや向かい風になった様子だったが、やがて3艇かたまって、ゴール数100m手前で風が落ちて立ち往生している様子だった。

このレースに参加する皆さんは、順位よりも帆走、帆装技術や海面の情報、その他諸々の情報の交換、メンバー同士の交歓を重視し、和気あいあいと一日を過ごし、月一回の集合を楽しみに集まって来るようである。レースは大抵、赤々灯台間のだだっ広いラインからのスタートで、接触の危険や、スタート位置の取り合いはなく、それぞれの船のペースでスタートしていく。去年、蒲郡ハーバーが県営でなくなってから、レース後の交歓会は蒲郡の中心にある蒲郡荘で行っている。ここでは軽食を用意してくれて、後片付けも自分たちでやる必要がなく、費用も非常に安くあがっている。しかも最上階の温泉で三河湾を眺めながらレースの汗を流すことができる。Vikingは数年前からこのレースに参加させてもらっているが、最近、参加艇が段々減少してきていて、参加艇を増やす方法がいつも話題に上る。8m以下のヨットに乗っておられる皆さんで、時にはレースにも参加して、他の船との交歓に参加したいと思っておられる方は、是非一度、毎月第4日曜日の10時からの蒲郡ヨットハーバーでのレース打ち合わせか、大抵11時スタートのレースを観察に来られませんか。もちろん下調べなしで直接レースに参加される方が大歓迎です。現在、われわれは楽しくやっていますが、艇数がふえればもっと楽しくなると期待しています。



鳥羽クルージング 5/4~5/5

MCC 鳥羽クルージング

うらなみ 近藤

5月4日、朝9時30分、うらなみは鳥羽合同クルージングに参加するため三谷漁港を出港した。ベベが猪股さんを除いて5月3日から出掛けており、5月3日は大王泊り。5月4日に鳥羽で合流予定。もう一つの参加艇マーメイドプリンセスはうらなみとほぼ同時刻に海陽ハーバーを出港。

ここのところ冷却水の調子が悪いうらなみは6掛けのパワーでないとエンジンがオーバーヒートしてしまう。風でも強風でもエンジンが頼りなので、前の日からそこそこの中風を祈っていたが、人生といっしょでいくら中庸を求めても山と谷の繰り返し。カーム中を4ノット弱の機走でトロトロとはしるはめとなった。

さっそくコックピットにテーブルを出し、この日のためにクール宅急便で取り寄せた地ビール多摩の恵で乾杯。一体、世の中に焼酎や日本酒にうるさい人は多いがビールにうるさい人は少ない。ビール好きの私は地ビールだけで30種類以上は試しており、中でもこの多摩の恵パールエールは特に美味。炭酸がまろやかで、味は濃厚。仄かな苦みの中に微かな甘みがある。その後は焼酎の水割りとジントニック。本日のジンはボンベイサファイア。トニックウォーターはシュエップス。ヘミングウェイは「海流の中の島々」の中で、「何と云ってもジントニックは最高のカクテル」と言っている。



アルコールが回り始め気持ちも日常を離れ、クルージングの喜びに満たされ始めた頃、石川君が海外旅行の土産の葉巻を出してきた。葉巻と言えばキューバ産と普通は思うが石川君が行ったのはタイ。出



てきた葉巻は茶色ではなく、カシワ餅のような緑色。さっそくゲストの猪股さんと庄司さん、それに島田兄がこの異様なかしわ餅のような、また中華ちまきの様な不思議なものを喫み始めた。20年以上禁煙しているが紙巻たばこと葉巻は別物と、自衛隊の憲法9条の超法規的解釈のように勧められるままに一本を加えた。かつては1日に60本以上吸っていたチェーンスモーカーの私を軽い目眩とともに得も言われぬ気持ち良さが満たした。

デビッド・リーン監督の「戦場に架ける橋」の舞台のクワイ側とタイメン鉄道交わる辺りで購入したと聞いたら、何所からともなくこの映画の「クワイ側マーチ」が聞こえてきた。頭をやられたらしい。因みにこの映画に英国人将校役のアレックス・ギネスとともに日本人将校として出演した早川雪舟は戦前の若い時、ハリウッドで活躍し、当時人気のルドルフ・バレンチノを抑えてアメリカでNo.1の人気を誇っていた。今で言えば役所広司や木村拓哉がブラッド・ピットやジョニー・デップより人気がある様なもので日本人としての快挙である。

カームの無聊を慰めるため庄司さんが持参した三線を弾き始めた。長崎県の五島列島が故郷の庄司さんが三線とともに唄う沖縄の唄は哀愁を帯び島唄の雰囲気をよく体現していた。南国の日差しの強い土地は影もまた更に濃い。その哀愁はポルトガル音楽のファドに共通する味わいがある。



小浜に着いた時はベベとマーメイドは既に桟橋に係留しており、湾内の時が止まったような静かな夕方の時間（欧米人のいうところのマジックアワー）を楽しんでいる様子だった。

今年の宴会は和食のてんびん屋で行われた。店は繁盛しており、宴席は大変きれいで、配られた料理の味も盛り付けも申し分なかった。それだけに葉巻にやられてウーロン茶しか飲めず、料理もほんの少ししか食べられなかったのが残念だった。宿泊は定宿の阿波海をお願いした。宿に戻ると敷かれた蒲団の上に大の字なつてくつろ

いだ。若年寄りのうらなみと違ってベベの部屋は今日も賑やかだ。若い人から元気をもらおうとよく言うが、私はいつも年長のベベさんから元気をもらう。戦後のベビーブームの申し子である彼らはまず声がデカイ。家庭でも学校でもエネルギーでないと多数の中に埋没して忘れられてしまうからだ。特に都築さんと小林さんは声がでかい。ついには夜中、宿の控えめな奥さんから隣室の人が笑い声が大き過ぎて困っているというお願いがあった。翌朝、猪股さんが「60才に近いいい大人が情けない」と何度も揶揄していた。

朝食ではいつものようにビールで小宴会が始まった。他艇にいつもあきれられベベ、うらなみ以外で2度参加する船は皆無。朝9時過ぎには阿波海前の桟橋のもやいを解き、それぞれに帰路に就いた。帰りは菅島水道を通らず、名も知らぬ小さな島々が点在する桃取水道を通った。機関を気づかいながらカームの中を7時間掛けゆっくりと三谷へもどると、「反省会」のためベベの人たちが待っていた。今宵の反省会は中華料理の京華。高山正之や石原慎太郎の影響が近代中国が好きでない私が、この中国人コックお作る絶品の海鮮料理やスープと中国美人の奥さんの笑顔に接すると一辺に中国文化の虜になってしまう。

何も反省しない反省会は楽しく料理が堪能できた。そして思った。ヨットレースに出る目的や動機は各人がかなり明確だと思う。果たしてクルージングのそれはどうなんだろう。仕事や日常から離れること。まだ知らぬ港や島を訪ねること。ただ風と波と陽光に身をまかせ心の漂泊すること。シーマンシップやタフネスの自己への証明をすること...等々、色々ある。振り返って自分に問いかけてみる。私の場合は強いて言えば人生をより楽しむためといったところだろうか。



今回参加したマーメイドプリンセス

夏は海で遊ぼう！スナメリの泳ぐ海を守ろう！！

第9回蒲郡マリンカップヨットレース

2007.8.5(SUN)

11:00 START!

コース 三谷 - 大島(東) - 小島 - 仏島 - 大島(西) - 三谷

(三島回航レース)

夏・恒例の、楽しいイベントを企画しました。

三谷漁業協同組合の協力を得て、レース後は魚市場でバーベキューです。

レーサーもファミリーも一緒に楽しみましょう！！

賞品多数！乞うご期待！

主催 蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
共催 三河湾クルージングクラブ、白谷ヨットクラブ、JSAF外洋東海三河湾F
協力 三谷漁業協同組合、三谷漁港利用者会ヨット部会
適用規則 2005-2008 国際セーリング規則、帆走指示書
参加資格 小型船舶安全検査合格艇 乗員制限 小型船舶安全検査定員以下
出艇申告・艇長会議 8月5日(日)9:00 三谷漁港魚市場

申込締切 7月29日(日)

申込方法 郵送またはFAX 艇名、艇種、セーラーNo、連絡先住所、氏名、電話、FAX(様式別紙)
申込先 蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
FAX 0533-57-4401 郵送先 443-0104 蒲郡市形原町三浦町11-3
参加料 30f未満 8千円、30f以上 1万円
(バーベキュー参加料を含む、炭、食材、その他を用意いたします。)
振込先 三菱東京UFJ銀行名古屋営業部・普通・No2334627・口座名 ヨットレース実行委員会

表彰 8月5日(日)14:00 三谷漁港魚市場
部門分け・レーサー部門、クルーザー部門
クラス分け・各部門の参加艇数に応じてクラス分けする。
修正時間システムは、本レース独自のものを使用する。
各部門、各クラス別上位艇を表彰する。全艇に参加賞あり。
泊地 8月4日(土)は、三谷漁港内に係留可、事前申込要
問合せ先 FAX0533-57-4401 またはEメール naka4401@sk2.aitai.ne.jp お願いします。

併催 アフターパーティの間に三谷漁港魚市場前で
JSAF外洋東海主催の東海フェスティバル(安全訓練)が開催されます。
ご参加ください。

お願い

各艇、バーベキューコンロを持参してください。
魚市場の下は濡れています、腰掛用にシートを持参してください。
ゴミは、各艇持ち帰っていただきます。ご協力ください。

第9回 蒲郡マリンカップヨットレ - ス 参加申込書

艇 名 (漢字等の場合、カナを付けてください)
セ - ル No (無い場合、無しと記入してください)
艇 種 (ヤマハ23 - 等、詳しく記入してください)
全 長 m, feet
泊 地 (通常、係留等しているマリ - ナ名を記入してください)

所有者(代表者)氏名
同上 住所

連絡責任者 氏名
同上住所(郵便番号)
同上 電話 FAX

参加料 振込日 年 月 日

レース前夜、三谷漁港に 係留したい、 係留しない

申込締切 7月29日(日)

申込み先 蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会

FAX 0533 - 57 - 4401

郵送 443-0104 蒲郡市形原町三浦町 11-3

Eメール naka4401@sk2.aitai.ne.jp

ハンディキャップ(修正時間係数)算出資料

艇種別の標準デ - タ等から、本レース独自の修正時間係数を算出します。
次の項目について 印等でお答えください。

艇 種 (ヤマハ23 - 等、詳しく記入してください)

ファ - リングジブ 使用、 不使用

プロペラ 船外機、フォ - ルディング、フェザ - リング、固定2翼、固定3翼

出艇申告時に別紙乗員名簿を記載提出していただきます。 **当日提出** してください。
乗員の氏名、性別、年齢、住所(市町村名)及びコメントを記載してください。

第9回 蒲郡マリンカップヨットレ-ス 乗員名簿

当日提出

艇名 _____ 艇種 _____ 全長 _____ feet

セール No _____ 泊地 _____

所有者(代表者)氏名 _____

所有者(代表者)住所 _____

電話 _____ FAX _____

	氏名	性別	年齢	住所(市町村名)
(艇長)				
2				
3				
4				
5				
7				
8				
9				

コメント(各艇紹介に使います、乗員・艇の特色などを記入してください)

不足は裏面を使用ください。